

COMTESSE SETSUKO KLOSSOWSKI DE ROLA

伯爵夫人

ド・ローラ・セツコ



菊池神社に寄贈されたセツコさんの
「シャクヤクとゆりの花」の前で
(左) 春美さん (右) セツコさん

日本名、出田節子さん。1967年10月、20世紀を代表するフランス具象絵画の巨匠バルテュス・クロソウスキー氏（1908年－2001年）と結婚。正式名は、セツコ・クロソウスキー・ド・ローラ（Comtesse Setsuko Klossowski de Rola）である。

バルテュス氏亡きあと、スイスの山荘で娘の春美さんとバルテュス氏財団の管理をするかたわら、自らも絵画創作活動をし、ニューヨーク、パリ、東京などで個展を開く。セツコさんの作品で今、最も有名なものはワインのラベル「シャトー・ムートン・ロートシルト1991」であろう。

1984（昭和59）年6月、京都市美術館で開催された「バルテュス展」にバルテュス氏、娘の春美さんと来日。その折に、家族水入らずでセツコさんの先祖の地である菊池市を訪問。れっきとした菊池氏一族の女性である。その時に、セツコさんが描いた「シャクヤクとゆりの花」を菊池神社に寄贈された。

また、2004（平成16）年10月には、20年ぶりに菊池市へ娘の春美さんとともに里帰りされ、バルテュス自画像（リトグラフ）を菊池市に寄贈された。

2005年、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の「平和芸術家」に任命されたセツコさんは現在、世界平和のため、文化遺産保護のため独自の創作活動に取り組まれている。